

自己決定を促す支援のあり方について

—国語科「写真ニュースをかこう」の実践から—

関 和 典

1

(1) はじめに

養護学級では、教育目標として「生活力のある子ども」を掲げ、子どもたちがそれぞれの実態に応じてのびのびと力一杯活動し、健康で楽しい学校生活を送る中で、様々な要求や力を実現していくことを願い日々の教育活動を計画している。そうするために指導者は子どもたちの要求を取り上げ、力一杯活動できるように、他の子どもやその周りの環境に対して適切な支援をしていく必要がある。

養護学級では、以下の3つの力を「生活力のある児童」と考えている。

- ことばや行動で自己を十分に表現し、主体的に行動する力
- さまざまな集団やいろいろな人との関わり合いの中で、生活や学習をする力
- いろいろな場面で判断したり、工夫したり継続したりして生活や学習をする力

この3つの力を総合すると「児童がその子なりの考えをもち、よりよい方向を目指して進んで考え、判断し表現していく（行動していく）力」であり、この力に向かっていく児童を「自立に向かう子ども」と考えている。

本年度は、児童の選択の実態と、その支援の関係のほかに、集団との関わりについても考えていき、その表を作成した。（本年度研究紀要参照）その表をもとにして本実践の中で考えていきたい。

2 指導の実際

(1) 本单元について

児童は、日々生活していく中でいろいろなことを経験する。毎日の学習や、様々な行事等がその中でも主としたものである。その中に印象的なことが多く、以下の要件がそろえば、児童は豊かに自分の思いを表現をしようとすると考えられる。

1. 伝えたいという相手（人）がいる。
2. 伝える手段（ことばや身振り、サイン、具体物等）がある。
3. 支持的な環境（意見を発表できる場）がある。

また、児童が同様の行事を経験していても、児童一人ひとりの心に残ることはそれぞれに異なっているものである。本学級では、毎週月曜日に「マイクでおはなし」という国語の時間を設定し、児童が休日に楽しかったことを発表する場を設けている。

それに加えて、学校での行事等で児童が生き生きと活動している場面を取り上げ、その中で自分の表現したい場面を選択することによって児童の生きたことばを引き出すことができると考えた。

ただ、現在の気もちではなく、過去のことを表現するためには、児童の実態に応じた手がかりが必要となってくる。本单元では、児童が過去行った活動についてのイメージをもちやすくするため、行事での場面の写真やVTRを提示することで、そのとき感じたことを引き出すことができる

と考えた。

さらに、本実践では、児童が自分の一番楽しかったことを自分の考えで選択し、そのことを手がかりとしてより豊かな表現をすることができるのではないかとすることも授業の中に設定した。

そうするために、本実践では、児童が楽しみにしていた「たんじょうび会」の学習を、計画、買い物、当日の調理、会食、レクリエーションという場面に分け、その写真やVTRを提示することで、自分の一番楽しかったことを選択する手がかりとした。

本単元における実態と課題は次のようである。

児 童	実 態	課 題
⑨	○印象的だったことを、一重文で表現することができる。平仮名と漢字で表現できる。	・自分の思いを正しい文章にして書くことができるようになる。
⑩	○自分の思いをたくさんのことばで表現できる。平仮名で表現できる。	・自分の思いを整理しながら、丁寧に文章に表すことができるようになる。
⑪	○印象的だったことを単語や形容詞で表現できる。平仮名で表現できる。	・自分の思いを「○が～した。」という形で表現できるようになる。
⑫	○思いをたくさんのことばで表現できる。漢字と平仮名で表現できる。	・自分の思いを整理しながら、助詞等に注意して表現できるようになる。
⑬	○自分の行動や思いを正しく時間を追って表現できる。漢字を多く使って表現できる。	・感情を交えた形容詞を使い、自分の思いを表現できるようになる。
⑭	○印象的なことを感情を交えながら表現できる。平仮名で表現できる。	・自分の思いを整理して、自分の感想等を確実に表現できるようになる。

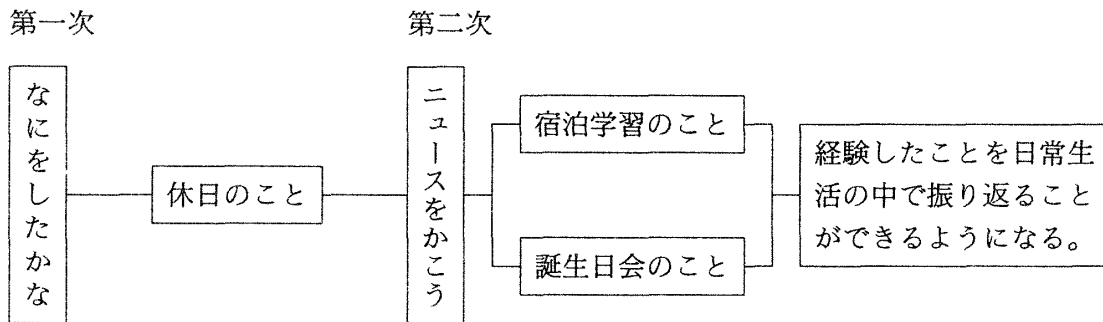
本単元に関する子どもたちの自己決定に関わる実態と考えられる支援は次のようである。

児	実 態	考 え ら れ る 支 援
⑨	自分の好みのものがあり、いくつかのものの中から選択することができる。	いろいろな活動のイメージを持つことができるような手がかりを提示する。
⑩	自分のやりたいことをイメージして、そのことを言葉で表現することができる。	集団の中で自分の思いを表現しつつ、指導者や友達と関わり合うようにする。
⑪	自分のやりたいことを、2者の中から取捨して選ぶことができる。	イメージをもつことができるようないくつかの選択肢を提示する。
⑫	自分のやりたいことをイメージして、そのことを言葉で表現することができる。	集団の中で自分の思いを表現しつつ、指導者や友達と関わり合うようにする。
⑬	自分の好みのものがあり、いくつかのものの中から選択することができる。	いろいろな活動のイメージを持つことができるような手がかりを提示する。
⑭	自分の好みのものがあり、いくつかのものの中から選択することができる。	いろいろな活動のイメージを持つことができるような手がかりを提示する。

(2) 指導目標

- 1 経験したことをことばや文章で表現することができるようにする。
- 2 自分の一番伝えたい部分を選択し、それを手がかりにしながら豊かな表現をすることができるようにする。

(3) 指導内容と計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8時間



(4) 第二次第3時の目標

- 誕生日会で楽しく活動した場面を選択し、そのことを文字やことばで表現できる。

(5) 研究仮説について

本実践2の(1)でも述べたように、本単元での授業仮説を以下のように設定した。

児童が生き生きと活動している場面を時間を追ってVTRや写真によって提示すれば、児童は自分の表現したい場面を選択し、言葉や文字で表現することができるであろう。

(6) 目標行動について

目 標 行 動	指 導 者 の 支 援	児 童
一番楽しかったことを選び、自分が言ったことを文章にすることができる。	写真カードや、文型のカードを提示する。	⑨
一番楽しかったことを一つだけ選んでいねいに文章で表現することができる。	発表の時に印象深かったことを選ぶようことばかけをする。	⑩
楽しかったことを複数の中から選び文型にあわせて表現することができる。	発表の中で興味をもった場面の写真カードや文型のカードを提示する。	⑪
一番楽しかったことを選び、自分が言ったことを文章にすることができる。	平仮名の表記、助詞等に注意するようことばかけをする。	⑫
一番楽しかったことを選び、自分の気持ちを交えた文章で表現することができる。	選んだ写真の様子や、気持ちを引き出すようなことばかけをする。	⑬
一番楽しかったことを選び、自分の気持ちを表した文章で表現することができる。	発表の時に印象深かったことを選ぶようことばかけをする。	⑭

(7) 学習の展開

学 習 過 程	予想される活動	指 導 ・ 支 援 活 動	
		全 体	個 別
<p>1 はじめのあいさつをする。</p> <p>2 誕生日会のことを思い出し発表する。</p> <p>ことば 写真</p> <p>3 ニュースにしたいことを選ぶ。</p> <p>写真</p> <p>4 ニュースを書く。</p> <p>文型 様子 気持ち</p> <p>5 みんなの前で発表する。</p> <p>6 終わりのあいさつをする。</p>	<p>1. 当番児童がすぐでて来るであろう。</p> <p>2. すぐに楽しかったことを思い出すであろう。(児⑩) ・ 写真を見て発言し始めるであろう。(児⑨⑫⑬⑭) ・ 写真に興味を示すだろう。(児⑪)</p> <p>3 ○すぐに決めることができるであろう。(児⑨⑫⑬) ○いろいろな場面を選択してしまうと思われる。(児⑩⑭) ○選ぶときに、手がかりが必要であると思われる。(児⑪)</p> <p>4. 自分の行動を次々に書いていこう。(児⑩⑫) ・ 写真を見てその内容を書いていこう。(児⑨⑬⑭) ・ 単語によって表現するであろう。(児⑪)</p> <p>5. 率先して発表するであろう。(児⑨⑩)</p> <p>6. 当番児童がすぐでて来るであろう。</p>	<p>1. 学習の姿勢づくりとして毎時間行う。</p> <p>2. 楽しかったことが児童のどの活動にあるのかということを引き出すことができるようなことばかけをする。 ・ 友だちの意見や楽しかった部分を全体場で評価する。</p> <p>3 ○発表の中で一番書きたい部分はどこかということが分かるよう活動の流れごとの写真を提示する。 ○児童が一番書きたいところを手がかりにして、それに関連したそのときの気もちなどを書くことができるようことばかけをする。</p> <p>4. 児童がつまづきやすい部分を、実態に応じて支援する。支援しやすいよう座席の配置を考慮する。 ・ 進度の速い児童の模倣にならないよう自分の考えを表現するようことばかけをする。</p> <p>5. 自分が一番伝えたいところが分かるように写真とともに発表をする。</p> <p>6. 学習の姿勢づくりとして毎時間行う。</p>	<p>1. あいさつは当番児童児⑨が行う。</p> <p>2. 児⑩には、写真を見せる前に質問をする。 ・ 児⑨⑫⑬⑭には、発言をした時点で写真を提示しながら賞賛する。 ・ 児⑪には、その場でVTRを提示しながら賞賛する。</p> <p>3 ○児⑨⑫⑬には、その場でVTRを止めたり、写真を提示したりする。 ○児⑩⑭には、発表の場で一番印象深かったところを選択するようことばかけをする。 ○児⑪には、発表の時に興味をもった場面の写真を数枚提示する。</p> <p>4. 児⑩⑫には、平仮名の表記に注意するようことばかけをする。 ・ 児⑨には、文型のカードを提示する。児⑪には、写真の中の様子を言語化する。</p> <p>5. 児⑨⑩⑫⑭には、賞賛し他児へのモデルとする。</p> <p>6. あいさつは当番児童児⑨が行う。</p>

3 考察

(1) 提示した写真やVTRは有効であったか。

本時では、前述したようにそれぞれの児童に対して、計画、買い物、調理、会食、レクリエーションの5つの場面について1枚ずつの写真を提示した。それに先だって、それぞれの活動をVT



Rで提示した。児童は、VTRを見ているだけで、いろいろなことばを発してきた。ただ、児⑨⑩については、VTRを流しながら、児童の印象的だった場面で静止させ、その場面の写真を提示する（あらかじめ児童の印象的だった場面を予想しビデオプリンターでプリントアウトした）ことで、より一層イメージかが図れたと考えている。

また、6年生である児⑫⑬⑭については、自分たちが企画・運営したという気もちが強かったためか、レクリエーションに強い興味・関心があったようだ。6年生のどの児童も、レクリエーションの場面を一樣に楽しかったと発言していた。

このようなことから、児童に、写真やVTRを提示することは、児童が自分の一番印象的だった場面を表現していくためには有効な手段であったと考えられる。

(2) 児童は、自分の一番楽しかったことを選択できたか。

児童が一番楽しかったことを表現するためには、写真やVTRが有効といえたが、児童の行動を考えると指導者が提示している写真やVTRは、活動の一部分でしかない。結局指導者が提示した数場面の中での選択となってしまったのではないだろうか。児童は提示されたものを手がかりにはできても、児童の本当に楽しかった場面は、提示した中には一つもなかったのかもしれない。

特に、児⑨⑩については具体的なものが大きな手がかりとなるため、実際に児童が楽しかった部分を指導者が正確に把握していくことが重要になってくるといえる。

(3) 児童は、自分の思いを豊かに表現することができたか。

手がかりを提示することによって、児童は誕生日会でのことをほぼイメージできたといえる。児童が、表現していく上では大きな手がかりとなったであろう。実際、黒板に貼ってある写真や、自分が選んだ写真を手がかりとして、そのことを文章で表現することができている。(右参照)しかし、児⑫⑬については、目標行動の「気もちを引き出す」「自分の思いを」ということについて不十分であった。実際に誕生日会が行われているときに十分な活動に対しての評価のことばかけや、実際に楽しそうにしているときに「〇〇君(さん)、～だから(楽しいおもしろい、おいしい、etc)ね。」というようなことばかけがあることが、このような学習では重要になるのであろう。

そ	し	ん	右	じ	ま	ほ	お	た	ほ	天	り	キ	ん	し	り	か	り	合	し	休	木
を	手	し	V	照	し	ら	し	ら	し	ら	ア	キ	ト	ア	合	ち	た	じ	休	木	
下	「	N	キ	ト	下	か	し	て	木	が	セ	キ	ト	三	ア	合	ち	休	木	の	大
	お	も	し	が	「	ち	い	す	た	「	N	「	三	」	」	」	」	」	」	」	」
	も	お	も	し	が	「	ち	い	す	た	「	N	「	三	」	」	」	」	」	」	」
	し	り	ト																		
	ろ	チ	ク	ロ																	
	か	し	い	な																	
	コ	天	女	に	く	し	可	だ	つ	し	を	し	り	ま	じ	た	り	何	家		

4 おわりに

児童が楽しかったことを表現するのは、学習の場面だけではない。どちらかというときと日常の場面で指導者に対して語りかけてくることの方が多いと感じる。その際、冒頭で述べた「人・もの・場」という3つのキーワードが日常から指導者の指導者の意識にあるか無いかということはとても大きな事ではないかと考える。